

FM世田谷のパーソナリティー

うえむら はるか
植村 春香さん



NPO法人・農業情報総合研究所理事長。大阪育ち。

場所は東京都世田谷区。

そこに「FM世田谷」(83.4MHz)というコミュニティラジオ局がある。そのラジオ局の看板番組のひとつが「農」といえるニッポ



都民の農業への関心に応える

「ん!」。毎週土曜日の夕刻に放送される。その企画・司会を務めるのが植村春香さん。世田谷にだって134軒の農地があり、立派な農業者もいるが、この番組は圧倒的多数の市民に向けて、支えられている。農とまるで関係の無かった植村さんが「農・食」にのめり込んだのはBSE(牛海綿状脳症)や鳥インフルエンザをはじめとする食の問題に対する疑問からだった。疑問に答えてくれたのが農学部の学生たち。学生たちが勉強している情報を一般消費者の人たちに届けたいと、一緒に情報発信の活動を開始。知り合いを通じて世田谷の農家からは地元ブランド野菜である大蔵大根の紹介、世田谷市場の仲卸の話も提供した。05年にはNPO法人「農業情報総合研究所」を設立。東京農業大学の先生・学生の協力・参加を得て、いよいよ取材は八面六臂。凍土と農地、砂漠と農地を継いで若者の話題も取り上げた。大学と研究所の結びつきが宝の山だ。つきからつぎへテーマが生まれてくる。東京都世田谷で「農」を発信しつづけ、都民の農業への関心にこたえつづけた。

の農地があり、立派な農業者もいるが、この番組は圧倒的多数の市民に向けて、支えられている。農とまるで関係の無かった植村さんが「農・食」にのめり込んだのはBSE(牛海綿状脳症)や鳥インフルエンザをはじめとする食の問題に対する疑問からだった。疑問に答えてくれたのが農学部の学生たち。学生たちが勉強している情報を一般消費者の人たちに届けたいと、一緒に情報発信の活動を開始。知り合いを通じて世田谷の農家からは地元ブランド野菜である大蔵大根の紹介、世田谷市場の仲卸の話も提供した。05年にはNPO法人「農業情報総合研究所」を設立。東京農業大学の先生・学生の協力・参加を得て、いよいよ取材は八面六臂。凍土と農地、砂漠と農地を継いで若者の話題も取り上げた。大学と研究所の結びつきが宝の山だ。つきからつぎへテーマが生まれてくる。東京都世田谷で「農」を発信しつづけ、都民の農業への関心にこたえつづけた。

(実)